

県の香川では、“塩田内では、主として通路に多く見られる”，“瀬戸内海沿岸部にとくに多く生息する”という記述（松沢，1966）や、小豆島からの記録（大平，1974）など1970年代までの記録はあるものの近年の確実な記録はないとのことである。

末筆ながら、本種の記録を勧めて下さった酒井雅博先生、香川県での本種の生息状況や文献をご教示頂いた藤本博文氏、近県での本種生息状況についてご教示頂いた宇都宮靖博氏にお礼申し上げます。

引用文献

- 橋村正雄・丸山宗利，2015. ヨドシロヘリハンミョウ. 環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室（編），レッドデータブック2014 日本の絶滅のおそれのある野生生物5 昆虫類，214 p. 株式会社ぎょうせい，東京.
- 松沢 寛，1966. 塩田害虫オオツノハネカグシの生態と防除に関する研究. 日本専売公社昭和38・39年度製塩嘱託試験報告. 55 pp. + 4 pls.
- NPO 法人野生生物調査協会・NPO 法人 Envision 環境保全事務所，2017. 日本のレッドデータ検索システム. URL <http://jpnrdp.com/> (2017年7月26日アクセス)
- 大平幸男，1974. 小豆島の昆虫，香川の動植物. 74-75.

(久松定智 790-0003 松山市三番町8丁目234
愛媛県立衛生環境研究所生物多様性センター)
(橋越清一 790-0854 松山市岩崎町)

【短報】フトヒゲコメツキダマシの京都府からの初記録

フトヒゲコメツキダマシ *Fryanus japonicus* Hisamatsu, 1957 は，土佐黒尊（現：高知県四万十市）を基準産地として記載されたコメツキダマシ科の一種で，本州・四国に分布する（Hisamatsu, 1957）. 筆者は従来記録のなかった京都府において本種を記録しているので報告する. 少し古い記録ではあるが，このほど畑山武一郎氏に同定していただく機会を得て，本種であることが判明し，「京都府レッドデータブック2015別冊京都府自然環境目録」に記載がなく，関西甲虫談話会会員数名の方々に京都府における採集例について照会したが，情報が得られなかったので京



図1. 京都府産フトヒゲコメツキダマシ（スケール1.0 mm）

都府未記録と判断した.

1♂，京都府舞鶴市上安，五老ヶ岳，16. VI. 2014，黒田亘採集，筆者保管，畑山武一郎同定（図1）

採集場所は，標高約300 mの五老ヶ岳山頂にある都市公園の散策道で，採集に同行した息子が「見つけ取り法」により採集した. 現地は都市公園とはいえ，周囲の山腹は針葉樹の植林が少なく自然林が多く残っている.

なお，本種は分布が局所的で時々FITで採集できる希少種（畑山，私信）であるため，本種の寄主や生態等の解明はなお困難を極めることが予想される.

末筆ながら，本種の同定と情報提供をしていたいただいた畑山武一郎氏，および標本写真の撮影をしていただいた愛媛大学ミュージアムの吉富博之博士，ならびに本種の京都府における採集例を調べていただいた関西甲虫談話会会員諸氏に心からお礼申し上げます.

引用文献

- Hisamatsu, S., 1957. The Eucnemidae of Shikoku, Japan (Coleoptera), III. Trans. Shikoku Ent. Soc., 5 (3): 46-48.
- 京都府自然環境保全課，2015. 京都府レッドデータブック2015別冊京都府自然環境目録. 415 pp.

(黒田悠三 624-0851 舞鶴市大内野町47-3)

【短報】ヨツモンカメノコハムシの分布北限記録の更新

ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera quadrimaculata* (Thunberg, 1789) はハムシ科カメノコハムシ亜科に属し，日本，台湾，インドシナ，インドまで広く生息する広域分布種である（木元・滝沢，1994）. 寄主植物は，サツマイモ，ヒルガオなどのヒルガオ科植物で，サツマイモの害虫としても扱われている（小川，2003）. 日本では，沖縄本島以南に生息していたが，1997年には奄美大島に侵入し（今坂・海老原，1997），近年，喜界島（今坂・祝2007），屋久島（久保田，2008），宮崎県（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター，2008），熊本県（清水，2010），長崎県（山元，2000），福岡県（山瀬，2011），高知県（佐野，2014），愛媛県（越智・吉富，2016），山口県（山口県農林総合技術センター農業技術部資源循環研究室，2016），静岡県（酒井ほか，2008），伊豆諸島の大島・三宅島（竹内ほか，2012）と分布を拡大している. 今回，神奈川県厚木市において，2016年5月ならびに2017年4月から7月にかけて本種が得られている，同県からの記録は無いようなのでここに報告する.

1ex.，神奈川県厚木市船子，4. V. 2016，城所採



図1. 神奈川県産ヨツモンカメノコハムシ.

集; lex., 22. IV. 2017, 山田採集; lex., 27. IV. 2017, 加藤採集; lex., 8. V. 2017, 山田採集; 2exs., 11. V. 2017, 加藤採集; 4exs., 神奈川県厚木市船子, 23. V. 2017, 重藤採集; 2exs., 2. VII. 2017, 重藤採集 (筆者保管).

いずれの個体も、ヒルガオ科植物の葉上で、ルッキングとスウィーピングによって得られた。今回の報告により、本種の分布の北限が更新され、今後の分布拡大に注目したい。

末筆ながら、貴重な標本を提供して下さった東京農業大学昆虫学研究室の城所葉月、山田昌美、加藤優羽の各氏、また、原稿を校閲して頂いた東京農業大学の小島弘昭教授に厚くお礼申し上げる。

引用文献

- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類幼虫・成虫分類図説. 東海大学出版.
- 今坂正一・海老原円, 1997. 奄美大島で採集した昆虫類. *Korasana*, (64): 1-41.
- 今坂正一・祝 輝男, 2007. 喜界島で2007年に採集した甲虫. *Satsuma*, (137): 119-129.
- 小川泰弘, 2003. 長崎県におけるヨツモンカメノコハムシの侵入とサツマイモへの加害. *今月の農業*, (47): 26-30.
- 久保田義則, 2008. 屋久島におけるヨツモンカメノコハムシの採集と生息状況調査. *Satsuma*, (140): 243-246.
- 宮崎県病害虫防除・肥料検査センター, 2008. 平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号.
- 清水 稔, 2010. 熊本市で採集されたヨツモンカメノコハムシ. *熊本博物館館報*, (23): 83.
- 瀬島翔馬, 2011. 福岡市におけるヨツモンカメノコハムシの記録. *Pulex*, 日本昆虫学会九州支部会報, (90): 576-577.
- 山口県農林総合技術センター農業技術部資源循環研究室, 2016. 平成28年度病害虫発生予察特殊報第1号.
- 山元宣征, 2000. ヨツモンカメノコハムシの長崎県からの記録. *月刊むし*, (356): 45-46.
- 佐野信雄, 2014. 四国南西部におけるヨツモンカメノコハムシについて. *へりぐろ*, (35): 59-63.
- 越智あずさ・吉富博之, 2016. 四国に分布拡大したヨツモンカメノコハムシ. *さやばねニューシリーズ*, (21): 53-56.
- 酒井孝明・倉田章久・石川 均, 2008. 本州に侵入したヨツモンカメノコハムシ. *月刊むし*, (451): 15-16.
- 竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子・沼沢健一・嶋田 綾, 2012. [大島特産園芸作物における生産進行技術対策] ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策. 東京都農林総合研究センター平成24年度成果情報一覧. URL http://www.tokyo-aff.or.jp/center/kenkyuseika/08/pdf/h24/26_1.pdf (2017年10月5日アクセス)

(重藤裕彬 243-0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)

【短報】長野県安曇野市でツヤキカワムシを採集

ツヤキカワムシ *Boros schneideri* Panzer はツヤキカワムシ科ツヤキカワムシ属の1種である。我が国における本種の分布状況は河野 (1938) によって初めて北海道で認められて以降、長らく北海道のみより知られていたが、平山 (2005) によって栃木県日光市湯本 (標高1,500 m) から採集され、本州にも分布することがわかった。今回、筆者は長野県安曇野市の黒沢ダム付近の植林地で本種を採集したので、本州における追加記録として報告する。



図1. ツヤキカワムシ *Boros schneideri* Panzer.

lex., 長野県安曇野市三郷小倉黒沢ダム付近 (標高850 m), 23. IV. 2016, 筆者採集・保管 (図1).

黒沢ダムへ至る林道にて、道の脇に乱雑に置かれたカラマツと思われる伐倒木を調べていたところ、樹皮上を見慣れぬ甲虫が歩行していたので、持ち帰って調



図2. 長野県安曇野市三郷小倉黒沢ダム付近.